

風蓮湖・春国岱

(ふうれんこ・しゅんくにたい)

位置：北緯43度17分、東経145度21分／標高：1m／面積：6139ha／湿地のタイプ：汽水湖、藻場、干潟、砂州、低層湿原／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：北海道根室市、別海町／登録：2005年11月／国際登録湿地：1、2、3、5、6

湿地のタイプ：汽水湖、砂州、藻場



春国岱の景観

湿地の概要：

風蓮湖は、北海道根室半島の付け根にある海跡湖である。南から延びる春国岱と、北から延びる走古丹(はしりこたん)の二つの砂州でオホーツク海と隔てられ、中央部と南東端の2カ所の開口部で海とつながっている汽水湖である。東西約20km、周囲約65km、面積は約5600ヘクタール。面積に比べて湖岸線の長い、複雑な形をし、湖岸には広大な干潟が形成されている。流入河川は13本あり、河口付近には塩湿地が発達し、とくに風蓮川河口のそれは広大で、独特の景観を見せている。

春国岱は、オホーツク海の海流が運ぶ砂が堆積した砂丘で、風蓮湖にふたをしたような形になっている。約3000年前から1500年前にかけて形成された、年代の違う三列の砂丘で構成されている。長さ約8km、最大幅1.3km、面積は約600ヘクタール。砂浜海岸から草原、森林、塩性湿原、干潟と異なる生態系に、多様な野生生物を見ることができる。とくにアカエゾマツ林は、砂丘上に形成された世界でも珍しい例である。

風蓮湖は海産資源に恵まれた湖で、ホッキ貝やアサリ、コマイ、ワカサギなどの漁がおこなわれている。

多様な鳥類の観察場所：

風蓮湖・春国岱はこうした多様な自然環境を反映して、シギ・チドリ類やオオ

ハクチョウ、ヒシクイ、ヒドリガモ、スズガモ、キアシシギなど多くの渡り鳥の飛来地、中継地として利用され、280種あまりの鳥類が確認されている。オジロワシやオオワシ、クマガラ、シマフクロウ、タンチョウなどの希少種が観察される場所として、一年中、国内外のバードウォッチャーでにぎわっている。春国岱の入口にはネイチャーセンター、内部には観察路、展望塔などが整備されている。

温量指数：

根室半島は日本で温量指数(年間の毎月の平均気温から5℃を引いた値を合計した、植物分布と気温分布の関係を示す指数)のもっとも低い地域である。根室半島一帯は、流氷の押しよせる冬の寒さはもちろん、夏も海流の影響で海霧が発生して気温が上がらず、1年をとおして寒冷である。この環境が風蓮湖の多様で特異な景観を生んでいる。

【オジロワシ】体全体が褐色で、頭部が黄褐色、くちばしと足が黄色い大形のワシ。体長80cm、翼を広げると2mもある。道東～道北を中心に少数が繁殖しているほか、冬季にはロシア極東地域から飛来した個体が全道で越冬する。

●関係自治体

根室市役所 Tel: 0153-23-6111

別海町役場 Tel: 0153-75-2111



オジロワシ



上空から見た春国岱(写真：岡田操)

